



### 11 小田原川

**課題** 河床のアーマー化\*1 やツルヨシが蔓延する区間が見られ、土砂や流水による攪乱が減少していると考えられる。同緯度の越知川と比較して浮石率が低い。



小田原川

### 12 犬見川

**課題** 横断工作物の密度が最も高く、魚類の生息種数が少ないなど、全体的に単調な河川環境となっている。



犬見川

### 13 倉谷川

**保全** 山付き区間が多く良好な環境を有した支川である。



倉谷川

### 14 市川上流部 (生野ダム下流)

**課題** 河床がアーマー化\*1 し、石礫の表面に流下有機物の堆積が見られるなどダム下流に特徴的な状況にある。底生動物の種組成が前後区間と少なくなる。



市川

### 08 市川中流部 (神崎町)

**保全** 扇状地でツルヨシが優占する区間である。



市川

### 07 振古川

**保全** 貴重な魚類、2種が確認されている。



振古川

**課題** 流量が減少する区間やコンクリート三面張りの区間が見られる。

### 04 恒屋川・矢田部川・須賀院川

**課題** 市川水系で最も水質が悪く、底生動物の汚濁指標種が多い。流量の減少やコンクリート三面張りも相まって、河川環境の劣化が著しい。



矢田部川

### 03 市川下流部 (阿保〜中国自動車道付近)

**保全** 川幅が広く、砂州や後背水域など多様な環境が形成され、河川自然植生の多様性が高い。魚類の在来種も多い。



市川

### 02 市川下流部 (~阿保付近)

**課題** 市川下流部の横断工作物で回遊種の遡上が阻害されている。アユやモクスガニが堰の直下流に滞留している状況が確認されている。



遡上阻害要因となっている堰

### 01 市川河口

**保全** 左右岸とも干潟が見られ、植物、魚類、底生動物ともに汽水域や干潟に生育・生息する特定種が多く見られる。



河口干潟

**課題** 干潟は残存するが、小面積で断片化している。

### 15 市川源流部

**保全** 渓谷区間である。底生動物の在来種の種数が多い。ただし、特に冷水指標種が多いわけではない。



市川

### 10 猪俣川

**課題** 横断工作物の密度が高く、国道が平行するなど人為的な影響が大きい。また、ツルヨシが蔓延する区間があり攪乱の減少も伺える。



猪俣川

### 09 越知川

**保全** 浮石率が高く、ネコヤナギ群集が優占することから、流水による攪乱が持続し、健全な状態だと考えられる。



越知川

### 05 平田川

**保全** 二枚貝に産卵する魚類の種数が多い地点が集中する。本川や他の支川で減少傾向にあるなか、残された貴重な支川である。



平田川

### 06 礫草原 (市川)

**保全** 丸石河原があり、カワラハコ群落が見られる。兵庫県下でも数カ所にしか見られない。



カワラハコ群落

全体区分  
 ○ 各調査結果を総合的に判断・整理したゾーニング

魚類・底生動物の現地調査地点  
 ● 調査地点

回遊種の確認上限  
 ▼ 近年の確認上限  
 ▲ 過去の確認上限

植生から見た流域区分  
 ● ツルヨシ・ネコヤナギ型  
 ● 移行帯  
 ● オギ・ツルヨシ型  
 ● 感潮域

横断工作物の確認位置 (水面比高0.2m以上)  
 ○ 魚道あり  
 ○ 魚道なし

間取調査による名前のある淵の現状  
 ● 無くなった  
 ● 浅くなった / 狭くなった  
 ● 変わらない  
 ● 不明

予察調査による河川環境の記録  
 ● 課題が見つかった箇所

\*1 「アーマー化」…河床に堆積していた微細な砂やシルトなどが洗い流され、大きな礫や石のみが残る固化現象